

研究課題 (テーマ)	英語外部試験実施による大学英語教育の強化		
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	教養教育センター	准教授	モクタリ明子
	〃	准教授	清水義彦
	〃	講師	碓井エリザベス
	〃	講師	リ オリガ
研究結果の概要			
R6 年度、本学にて下記の通り TOEIC IP テストを実施した。 (1) TOEIC L&R IP オンラインテスト (2) TOEIC L&R IP マークシートテスト (1)は試験時間 1 時間のいわば簡略化された TOEIC テストである。工学部・情報工学部 1 年次生全員および工学部 3 年次生のうち「英語特別演習 4」を履修している学生を対象に、12 月の授業内（1 年次生「英語基礎 3」、3 年次生「英語特別演習 4」）にて行った。合計、523 名の学生が受験した。1 年次生のスコアは、R7 年度 2 年次生英語科目のクラス分けにも用いられた。 (2)は、TOEIC 公開テストと同様の 2 時間の試験である。工学部 2 年次生の希望者を対象に、12 月 3 日の放課後に行った。学生たちは、500 点以上取得した場合、3 年次生英語科目の単位認定にスコアを使用することができた。希望者は 147 名であり、そのうち 122 名が受験した。 進学・就職いずれの場合においても、学年が進むにつれ、TOEIC は多くの学生に関わってくる。1 年次生にとっては、早い段階で受験経験を得られたことで、TOEIC に対する認知度が上がり、対策を講じることが可能になった。TOEIC は、複数回受験し、試験慣れすることでスコアアップが狙いやすくなるという性質上、2-3 年次生が受験の機会を得られたことも有益であったと考える。 学生の客観的な英語のレベルを、学生本人および教員が認識できたことも、本プログラムによる成果である。スコアデータには、リスニング・リーディング別の平均点や標準偏差なども示されており、英語教員間で情報を共有することで、より効果的な授業を組み立てていくことが可能になると考えられる。			
今後の展開			
今後は、本学で実施している他の TOEIC 関連のプロジェクトと連携して試験を行う予定である。継続的に安定して実施できるスケジュールを組み、早い段階で学生に周知する。そのことによって、十分な準備期間を与え、単位認定・大学院入試・就職活動などに学生たちがスコアを有効に使えるようにする。			